

## 令和元年度第1回まち・ひと・しごと創生協議会

日時：令和元年10月4日（金） 15:00～16:40

場所：市役所4階 第2・3委員会室

出席委員：別紙のとおり

開会

副市長挨拶

### 1. 松浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略概要について

《資料2：事務局説明》

### 2. 松浦市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成30年度までの事業進捗及び 地方創生交付金活用事業について

《資料1、資料3、資料4：事務局説明》

《質疑応答》

(A委員)

資料3で、決算額のほぼ2分の1が交付金の額となっているが、漁業就業実践研修のみ決算額に対して交付金の率が低いようになっているが、何か意図的な意味があるのか。

(事務局)

漁業就業実践研修については、長崎県から2分の1の補助金も活用しており、残りの2分の1にあたる4分の1が国からの交付金の額となっている。

(A委員)

資料3を見てみると、お金の使いみちというのが2つあるように思う。1つは1ページ目の観光の事業については地域の活性化に繋がるものであり、もう1つ2ページ目の移住などの事業については定住施策ということになると思う。

観光の事業は地域の活性化に繋がると思うが、一時的なものという感じがする。松浦市の人口を増やすということを考えると、定住施策に重きをおくべきだと思う。お金の使いみちとして、有効に使うべきではないかと思う。

(議長)

こういったところに重点的に力を入れれば人口減少の抑制に繋がるかという視点は重要であり、次期戦略を練る上で参考にしたい。

(B委員)

資料4のKPIの達成状況については全て行政主導でやったものを実績としているのか、民間がやったものも実績としてあがっているのかということを知りたい。

分かりやすい例として、老朽危険家屋除去数というKPIがあるが、個人で危険家屋を除去したものが実績としてあがっているのか、行政が何らかの補助、指導をしたものが実績としてあがっているのか。

KPIの評価の仕方が分からなかった。

(事務局)

市が行った老朽危険家屋除去に対する支援の件数のみで評価をしている。

(議長)

民間主導の除去数の把握ができるのかということがあり、市が危険家屋の指定をして除去に対する支援を行った件数のみをあげているということになる。

(B委員)

全体において、全てが行政主導でやった結果のみで評価をしていいものかと思う。

(事務局)

総合戦略に掲げる事業が様々あるが、行政が支援せずとも民間が率先して進捗している事業もある。

### 3. 人口ビジョンについて

～総合戦略策定時の推計人口と平成27年国勢調査結果を反映した推計人口との比較

《資料5：事務局から説明》

《意見交換》

(議長)

人口ビジョンを策定したときの推計人口どおりに推移しているかということを検証しなければならない。

平成27年国勢調査の結果を反映した社人研の推計人口が、令和2年は21,402人となっている。

これに対し、令和元年8月末の住民基本台帳人口が22,658人であり、

住民基本台帳人口は国勢調査人口より約700人多いことから、差し引くと約22千人ということになる。

1年後にこの人口がどのようになるのか。

国勢調査の平成22年から平成27年までに約2千人減っていることから、年間では約400人が減っていることになる。

(事務局)

住民基本台帳では、平成30年に359人減っている。

(議長)

1年後に22千人から400人減っているとした場合の人口が、社人研の推計人口と比較してどうなのか。総合戦略を進めることで社人研の推計人口を上回り、人口減少が抑制されているのか。

また、松浦市の人口ビジョンでは2020年に22,088人になると推計しており、人口ビジョンどおり推移しているのかということを検証し、人口ビジョンを見直す必要があるのかということを考えなければならない。

これについては、これまで5年間総合戦略を進めてきたことで、ほぼ、人口ビジョンどおりに推移し、社人研の推計人口よりも人口減少は抑制されていると言えるのではないかと考えており、松浦市の人口ビジョンについては現時点では見直しの必要はないのではないかと考えている。

#### 4. 次期総合戦略について

～国・県の次期総合戦略策定に向けた動向と松浦市の次期戦略の策定スケジュール

《資料6、別添1、別添2、参考：事務局より説明》

《意見交換》

(C委員)

これまでの説明の中で注目したのが3つあった。

1つは、資料5の6ページ2013年(平成25年)の松浦市全体の転入者が364人とあるのが、2018年(平成30年)では720人となっている。

転入者がこれだけ増えた要因は何なのかということを知りたいと思った。

2つ目が、松浦市の人口ビジョンについて、この人口ビジョンの前提は、合計特殊出生率を2.2というもので、希望ということになると思うが、それがあってこの人口ビジョンによる推計が成り立つものであり、これについてはどうなのかという疑問がある。

3点目、さきほど小川委員から観光と定住という話があった。これについて、私は観光と定住は別物とは考えていない。定住にあたっては、まずは観光で松浦市を訪れ、日帰りで来られたのが、よかったら1泊してみる、2泊してみるということで、観光での魅力が増幅され、じゃあ松浦に定住してみようかなと考える人もいるのではないかと考える。そういう意味で、観光と移住というものが連動した取り組みというものも必要ではないかと思っている。

(D委員)

人口ビジョンで、市は2060年に15,161人としているが、社人研の前の2060年推計人口が10,860人、今回の推計人口が8,813人ということで、開きがありすぎると思うが、それについては総合戦略での施策をされてのことだと思う。

一番気になっているのが、次期総合戦略において考えられる視点ということで、松浦高校、私も松浦高校の出身であり、30年ぶりに帰ってきたが、本当に生徒が少なくなっている。このままでは廃校になるのではないかと感じている。新たな企画や総合学科を設けるなどの施策をしないと生き残っていけなくなるんじゃないか。松浦高校がなくなってしまうと、当然人口も減るし、活気がなくなる。そこに力を入れていかなければと感じている。

(E委員)

資料1の3ページ、外国人滞在数について、平成27年度から平成28年度に向けてかなり増えている要因は。

(議長)

民泊での受入に修学旅行生だけでなく、外国人や一般客の受入をおこなっているため、増えているのではないかと考えるが、F委員、どうでしょう。

(F委員)

増えてます。今年、一般客1千人をもう超えている。

韓国、中国とは、なかなかきびしい状況。向こうでは修学旅行とは言わない、行きたい人と募集をして学生が来る。そういう捉え方であり、なんとか、盛り返していきたいなと思っている。

(議長)

そういった要素も含まれていると、ご理解いただきたい。

地域経済活性化課から、外国人の滞在について、特徴的な取組みなどあれば。

(地域経済活性化課)

地方創生交付金を活用し、昨年度、インバウンド向けのモニターツアーを実施している。このモニターツアーの利用客も実績値に含まれている。

(F委員)

資料3にある体験型旅行商品の開発において、交付金を活用し山女魚の釣り

堀を整備し、皆様にご利用いただいている。新しい体験型のメニューとして、10月の予約数が250名、7月からの利用者数が300から350名ほどになる。

なぜ、これをしたかという、命の教育というのを私たちは目指している。釣った魚をその場で焼いて食べる。今一番、子どもたちに教えたいのはそこだと思う。いじめだったり、人の命をなんとも思わない親がいたり、そういう思いでやっている。

ただ、トイレが未整備で、柚木川内キャンプ場のトイレに連れて行くが、ぽつぽつと便所で子どもたちは怖いと言う。少しずつ、ご協力いただきながら整備していきたい、もっともっと大きくしていきたいと思っている。

それから、移住定住について、古民家活用というものにもチャレンジしていきたいと思っている。柚木川内は、十数軒あったところが今8軒となっており、空いた古民家がある。その中で、山女魚など地元産の食材を使った料理を提供できないかという思いでいる。皆様の協力を得ながらやっていきたいと思っている。

(G委員)

私自身が子育て中であり、まわりの人の意見も子育て支援は充実しているという意見ばかり。松浦市に来てもらえば子育て支援が充実していることは分かるが、来てもらう前に知ってもらうPRも必要なのではないかと思う。

子どもを産める人はどんどん産んでいる。出産ということに関しては不満はないので、そこは、勧奨をしたいなどは思っている。

(議長)

子どもを3、4人産んで育てておられる世帯も結構おられるが、市報に毎月掲載している、お誕生おめでとうの欄より、お悔やみの欄のほうが圧倒的に多い。これについては、結婚する人が少ないのではないかと思われる。

市でも婚活をやっているが、行政サイドでやれる支援ということであれば、子どもを産み、育てやすい環境を作るといいうわゆる子育て支援をやるということは言えると思うが、結婚してもらい、子どもを産んでもらうという面での支援というものがあるのか。婚活支援は、結婚してもらいのためのきっかけづくりと言えると思うが、なかなか応募者が少ないという状況。

(G委員)

その世代の人が定着すれば、そこから結婚する人も増える。若い人が就業できる、働く場を作り、定着してもらえば結婚する人も増え、子育てする人も増えるのではないか。

(議長)

今は女性も働いている。企業同士の婚活というものいいのではないか、次期

総合戦略に盛り込むか検討をしている。

(G委員)

そういう出会いの場づくりというのはいいのではないかと思う。

(H委員)

本日、会議に遅れたのは、御厨中学校で高校説明会があり、そこに参加していたので遅れた。御厨中学校の生徒とその保護者を前に話をしたのは、松浦高校ではどんな生徒を育てたいか、育ててほしいかという質問があったとして、私は、松浦、長崎、日本を飛び出して、世界を股に駆ける人材になって欲しいという気持ちはあるけれども、やっぱり自分を育ててくれた松浦のことを、いつも心のどこかで思ってくれるような生徒に育てて欲しいという話をした。

松浦高校では3分の1くらいが就職をする。そのうち4割から5割くらいしか県内に留まらないなかった。いろんな話をしてきたから分からないが、今年に限っては、就職希望の生徒の8割、伊万里などを含めると9割の生徒が、家から通える距離での就職希望を出している。それを見たときに私はすごく嬉しかった。地元のことを大事に思う気持ちが育ててくれたんだと思う。他所の高校を悪く言うつもりはないが、松浦高校に来てくれた生徒は、他所の高校の生徒より、卒業する頃には松浦のことを大事に思う子に絶対なっていると思う。

大学進学を目指している子に、いずれ松浦にどうやって戻ってこさせようか、ということいろいろ考えている。仮に、人生の一時期を東京や大阪で働いていたとしても、心のどこかでいつも松浦のことを思ってくれる、そういう人になって巣立ってほしいなと思っている。

(議長)

今の話は、出口の部分の話だった。片やD委員からあった話は、入口の部分、絶対数は増やさないと、という話だった。いずれも重要だと思う。どうやったらそのような結果に結び付いていくのかということを考えていかなければならない。次期総合戦略の中にもそういった部分を施策として取り込んでいければと思っている。

(I委員)

市報の話があったが、私も毎月市報を見て、最後のページに人口が載っているが、毎月40人から50人がコンスタントに減っている。今月は20人くらいと若干少なくなっているが、だいたいこの人口推移どおりにきているのかなと考えている。銀行の支店長をさせていただいている観点からも、市内の業者さんも活気がないと思っている方も多いのかなと感じている。

資料を見る中で、人口の推移もだが、税収が1億3千万も下がるのが予測されている。

会議の趣旨とは違うが、未来の年表というベストセラーの本があるが、松浦はこのまま推移するとどうなるのかと、そういう観点も必要なのではないか。このまま人口が減ったときにどのようなになるのか。できることとできないことというのがかなり出てくるのではないかと思う。人口が減ったときに一人当りの収入をどうやって増やしていくかという観点も必要なのではないか。松浦は今、アジフライの聖地としてやっているが、北海道にホタテの聖地というのがある。そこは、日本でも有数の裕福なまちとなっている。そういう観点も何か考えなければならぬのではないか。

最後に新たな視点というのがあり、色々なことをやられると思うが、何かをやってみようというときには、相談してもらえば何かしらの支援ができると考えている。

(議長)

この会が始まってから、定住人口のことや、交流人口が定住人口に結び付くこともあるとの話もあり、定住というの大きな要素であり、入ってきてもらう移住ということも大きな要素だと思う。自然減をカバーするためには、社会増を図っていくと、移住、定住人口を増やしていく、それしかないと思う。定住という面で大事な役割を果たしているのが一次産業だと思うが、農業分野、漁業分野をどうやって活性化するかという意見があればお願いします。

(E委員)

松浦市における人口の現状と分析というのがあるが、農業における人口もかなりこれと似たようなもので、農協の組合員もかなり減少している。15年くらい前からすると、3分の1程度は減ったんじゃないかと思う。これについては、農業が云々ということじゃなく、高齢化に伴う後継者不足ということが一番の原因じゃないかと思う。農業で食っていけるのかということが、まずあるんじゃないかと思う。それについては、事業を拡大しながらやっていく、そうしないとやっていけないじゃないかと思う。

定住人口については、一次産業のなかで後継者を創っていくということが、定住人口に繋がるんじゃないかと思っている。そういうことから規模拡大を図らなければやっていけない。70歳過ぎの農業者が50パーセント以上、50歳未満の方が17、8パーセントという分析も農協の中で出ている。そういった中で農業を継続していくというのは大変厳しい。

また、街からちょっと離れると空き家はかなり出てきているという状況、そういう中で、私も学生を受け入れたりするが、受け入れた子どもたちが、私たちは何でもない風景ですが、街からくると感動する。そういう田舎というか、私は何にもないと言うが、何にもないからいいのかなと、子どもたちには話したりする。何にもないところで空を見て感動する。海を見て感動する。島を見

て感動する。と考えたときに、一次産業の中にもそういったものを取り入れながら仕事をしなければならないとも思うし、そういうものを発見しながら一次産業も生活していける規模に持って行って、後継者を創っていく。

牛を増やしてきている。一時期、8千頭を切った牛が、今、9千2百頭、3百頭ということで、この2、3年のうちに9千5百頭まで持っていかうかということであるが、牛を飼っている家というのはどんどん減っており、1軒あたりで飼っている頭数が増えている。頭数が増えて、1軒あたり30頭、40頭となってくると後継者が出てくる。

農協の中でも大きな産業である、みかんについても後継者が大概おられる。そういった基盤をしっかりと作っていけば、農業でも後継者が生まれてくる。後継者が生まれれば、定住者というものは増えてくると考えている。

(J委員)

農業と一緒に水産も後継者不足というのがある。

私事ではあるが、子どもが3人おり、長女が山口県に進学した。先々、こちに帰ってくるのかと聞いたが、どうしようかなと、そういったときにどうしても地元での仕事、あとは給料、遠くのほうが給料がいい。親としては2、3年は向こうで暮らしてもいずれは帰ってこいよという親御さんも松浦にはかなりおられると思うが、そういった点で仕事、働く場所、そこをもう少し充実させたらいいと思う。

(議長)

上野委員が言われたように、稼げる農業、稼げる水産業というのが定住に繋がってくるという感じた。

(K委員)

今年の2月にこちらに赴任してきた、まだ、半年くらいであるが、県内の自治体と違って、いろんな特色のある施策を一所懸命、地道にやられている。そうやりながら人口減少を少し抑制できたりとか、効果は出ているし、いろんな問題について皆さんよく気づいておられると思う。

私は志佐に住んでいるが、志佐というのは非常にコンパクトにいろいろ整った地域であり、全然不便を感じない。しかし、周辺の御厨、星鹿、調川、今福、そして福島、鷹島の地域ごとの人口減少、転入、転出の状況はどうなのか。全体での数値は分かったが各地区毎に見たときにどうなのかということが気になった。その地区で転出が多ければ、その要因は何なのか、先ほどからの皆さんから出された意見の中などいろんなことが要因と思うが、ではその地区でどうやっていけば抑制することができるのかということが知恵の出し合いなのだと思う。

高齢化が進んで高齢者が増えている。高齢者も活躍できるような場をどのよ



うにつくっていくのかということも非常に大きな課題になってくると思う。そうすれば、お年寄りも暮らしやすい地域になるのかなと思う。

住みよいまちということで、松浦は県内でもトップということを知った。確かに子育てに関しては非常に手厚い施策をされた。さきほどから仕事がないという意見もあったが、有名な企業がたくさん工場を持っておられる。そこに勤められる地元の人をいかに増やしていくかということも企業とのこれからの交渉ということになると思う。それが定住人口に繋がっていくと思うが、そういった重要施策は、もうひとつの総合計画でこれから練っていかれると思う。

私は、こういう議論ができる、こういう環境にある松浦は非常に素晴らしいと思っている。

(議長)

今回は、総合戦略のたたき台をお示しし、皆様のご意見をいただきたいと考えている。

閉会